

令和8年1月5日（月）
令和7年度第2回さくら市地域公共交通会議（書面開催）

〈協議内容2〉

さくら市地域公共交通計画の進捗状況について

さくら市では令和6年3月に「さくら市地域公共交通計画」を策定しました。

「さくら市地域公共交通計画」では、1～6の目標を設定しており、その6の目標の達成度合いの確認のため、8つの数値指標を設定しています。

その8つの数値指標について、前計画「さくら市地域公共交通網形成計画」に引き続き毎年度取得し、さくら市地域公共交通会議で評価することとしています。

なお、この計画での評価は今回が初回となります。

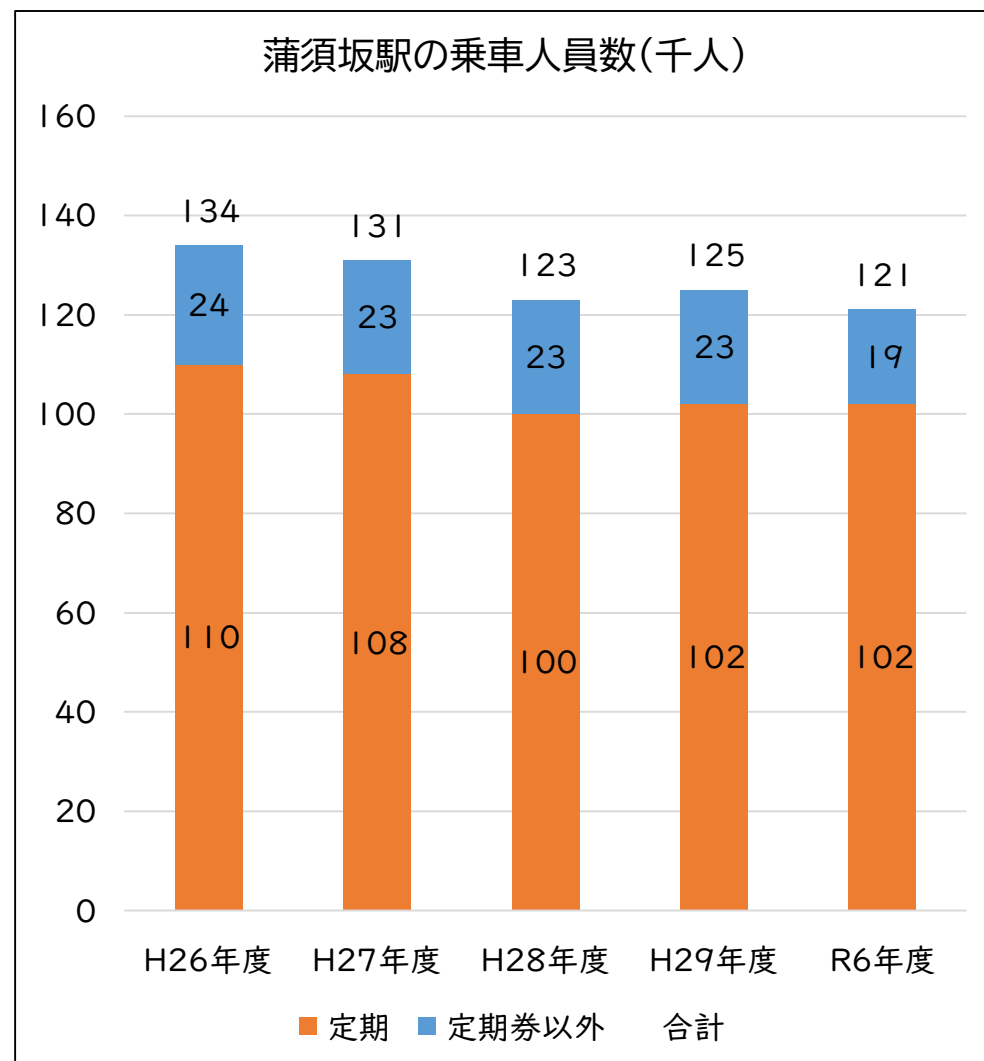
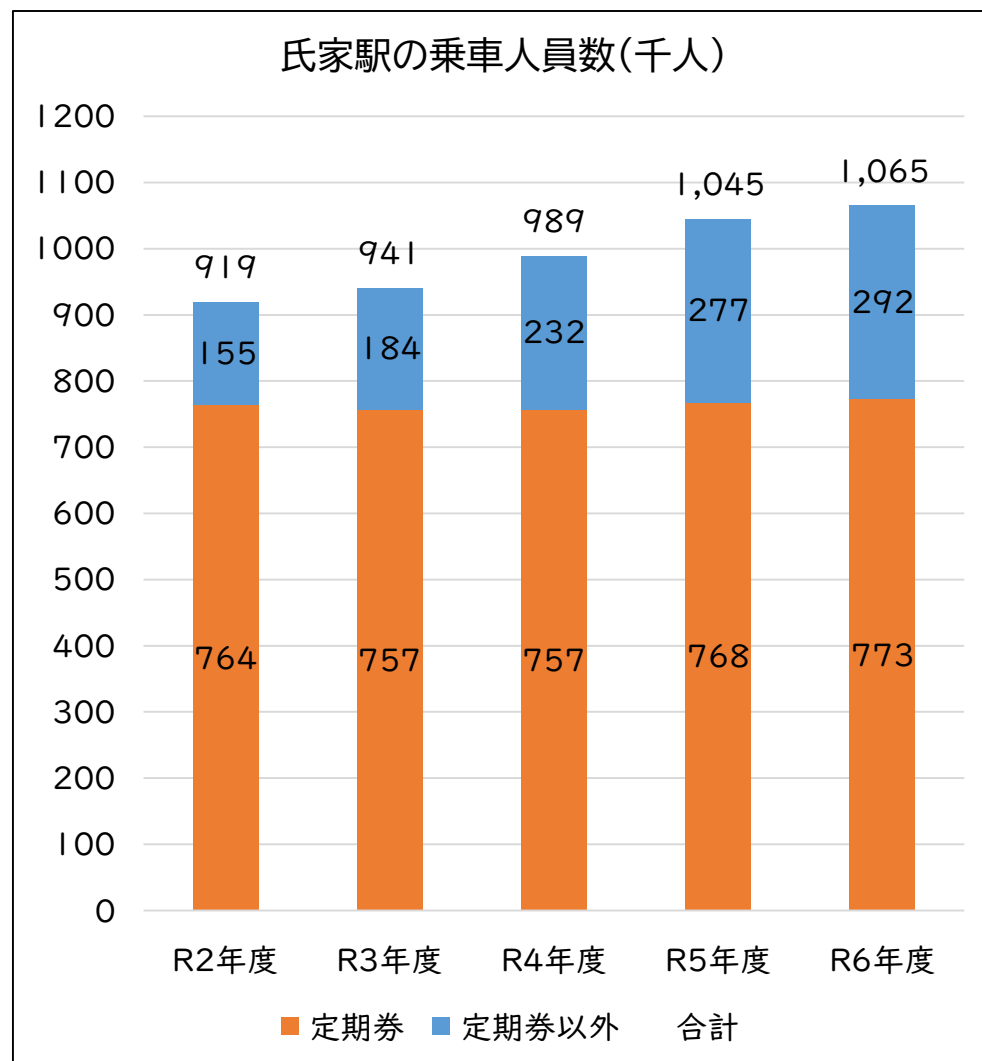
さくら市地域公共交通計画の進捗状況について

資料 3

指標内容及び算定式	取得方法	基準値	目標値	実績値（R6年度）	進捗状況※	「進捗状況」に対する現状・課題	今後の方針・コメント等	備考
①民間路線バスの利用者数	事業者の業務取得	フィオーレ線：4,930人 馬頭線：18,536人	基準値より増	フィオーレ線：5,206人 馬頭線：18,728人	○	コロナ禍における減少から回復しつつあるが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。	地域公共交通計画に基づくバス路線の見直しを行い、利用者数の増加を図る。	
②乗合タクシーの利用者	事業者の業務取得	氏家地区（うのはな号）：5,115人 喜連川地区（コンタ号・つういんコンタ号）：7,644人	基準値より増	氏家地区：4,358人 喜連川地区：9,596人	○	氏家地区の利用者が落ち込んだものの喜連川地区が増加し、全体数は増加。	AIシステムの導入直後は利用者が落ち込んだものの、その後は増加傾向にある。今後も更なる利用者増のために、事業の周知を行う。	
③氏家駅の1日平均乗車数	「各駅の乗車人数」 JR東日本ホームページ	2,711人	基準値より増	3,222人	○	コロナ禍における減少から回復傾向。令和6年度はコロナ前と同水準（令和元年：3,222人）まで回復。	令和7年2月より喜連川地区から氏家駅まで直接乗入が可能となったため、更なる乗車数増が期待される。	R6蒲須坂駅：332人
④路線バスの収支率	事業者の業務取得	フィオーレ線：19.7% 馬頭線：24.6%	基準値より増	フィオーレ線：24.7% 馬頭線：26.7%	○	コロナ禍における減少から回復傾向にあるため。収支率が改善した。	地域公共交通計画に基づくバス路線の見直しを行い、利用者数の増加を図ることによって運賃収入増を目指す。	
⑤乗合タクシーの収支率 〈算定式〉 運賃÷事業者への委託費×100	さくら市の業務取得	11.30% 【参考】 うのはな号：11.1% コンタ号：12.8% つういんコンタ号：8.0%	基準値より増	10.19%	×	AIシステムを導入したことにより、システム利用料及びコールセンター委託料が新たに発生したため、目標を下回った。	AIシステム導入前に比べると、費用は増加する。効率の良い運行を行い輸送人数を増やすことで、運賃収入増を目指す。	
⑥バス利用者1人当たりの公的資金投入額 〈算定式〉 公的資金投入額÷利用者数（フィオーレ線・馬頭線の合算）	利用者：事業者の業務取得 公的資金投入額：さくら市の業務取得	614円	基準値より減	570円	○	令和4年度と比較して、馬頭線が1便減便になったことが要因の一つと考えられる。	バスの利用者増のため、市内を走るバス路線の周知・利用促進を図る。	
⑦乗合タクシー1人当たりの公的資金投入額 〈算定式〉 公的資金投入額÷利用者数（各乗合タクシーの合算）	さくら市の業務取得	1,910円	基準値より減	2,403円	×	AIシステムを導入したことにより、システム利用料及びコールセンター委託料が新たに発生したため、公的資金投入額の増加につながった。	デマンド交通利用者を増やすため、チラシの配布やイベントでの宣伝等で利用促進を図る。	
⑧公共交通に満足している市民の割合	市民アンケート	56.7%	65.0%	53.20%	×	満足している市民の割合は、減少傾向にある。なお、市民アンケートはAIシステム導入前に実施。	AIシステムを導入したことにより、利便性向上を図った。今後の市民アンケートの結果を踏まえ、更なる満足度向上を目指す。	

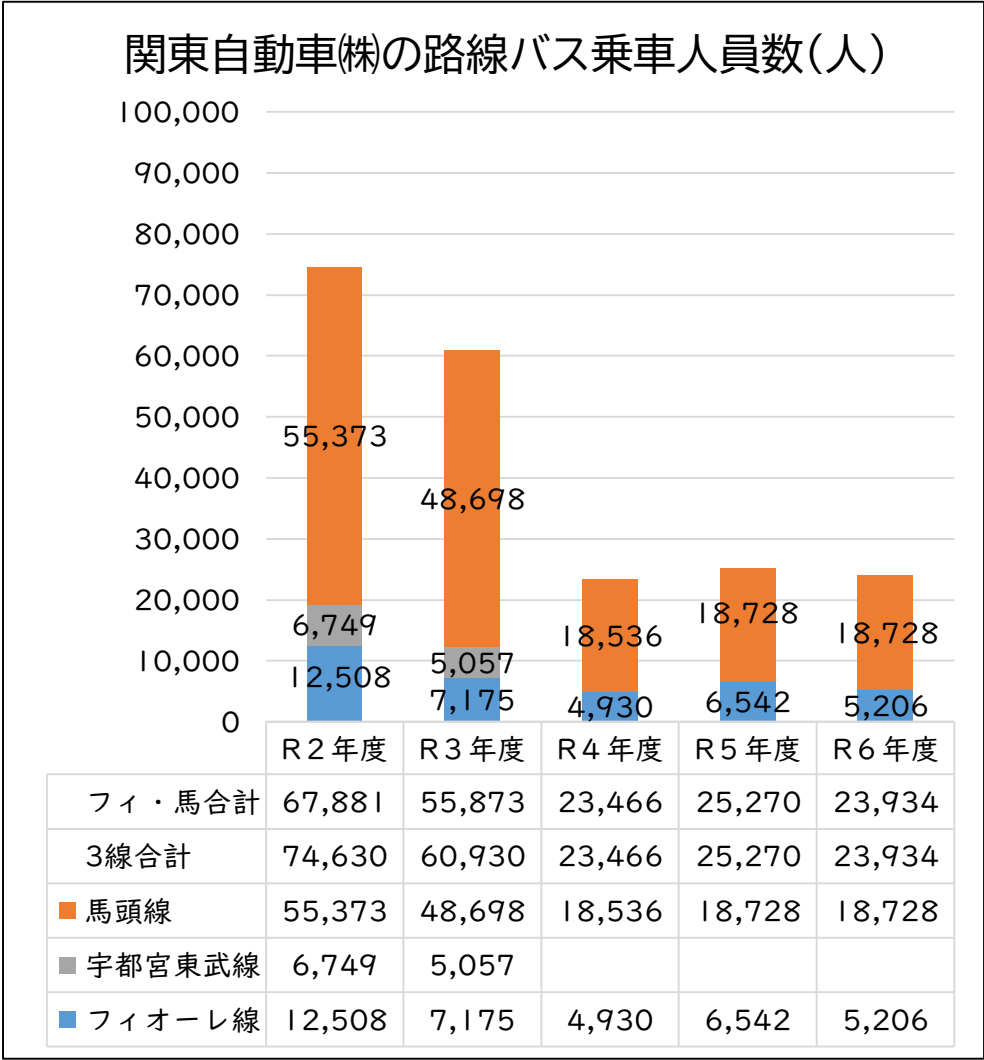
※ ○＝達成している △＝概ね達成している ×＝達成できていない

1 鉄道の実績

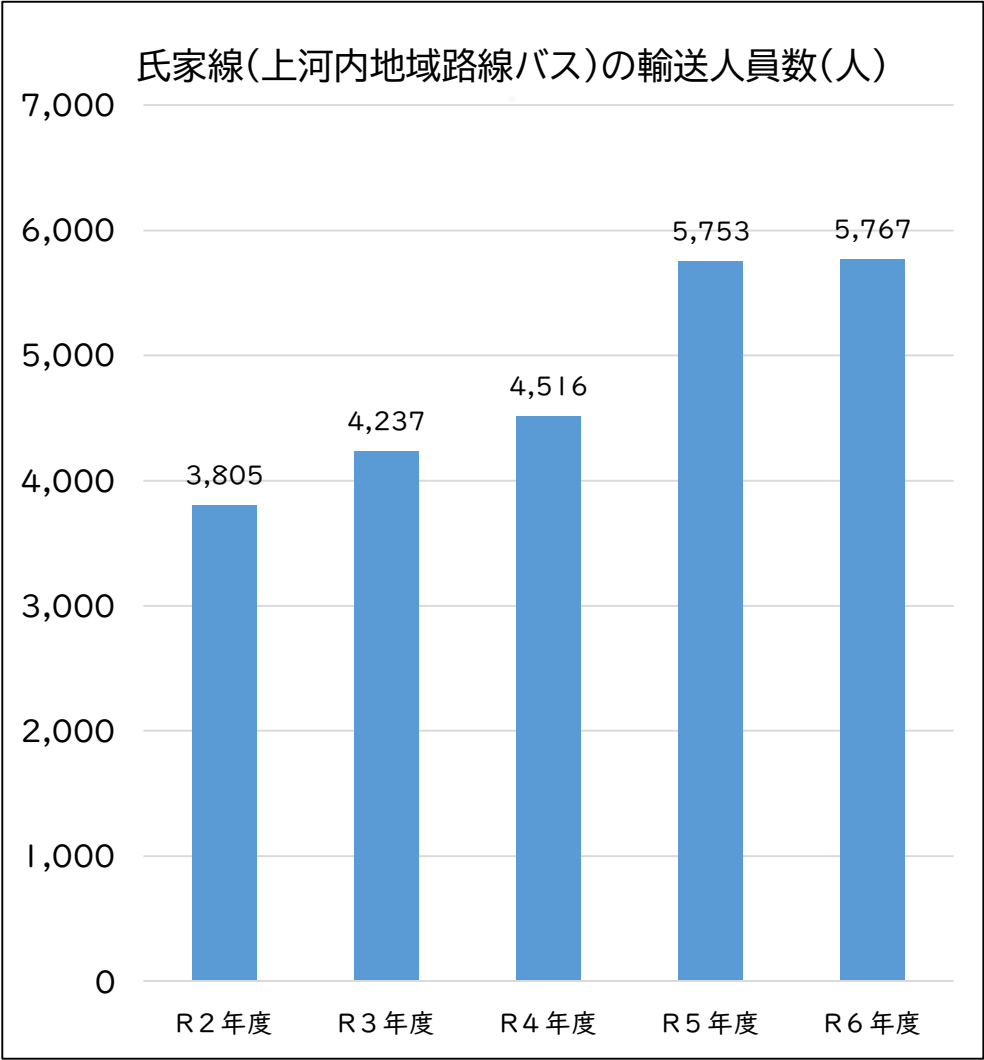


※蒲須坂駅の乗車人員数は平成30年度～令和5年度まで非公表

2 路線バスの実績

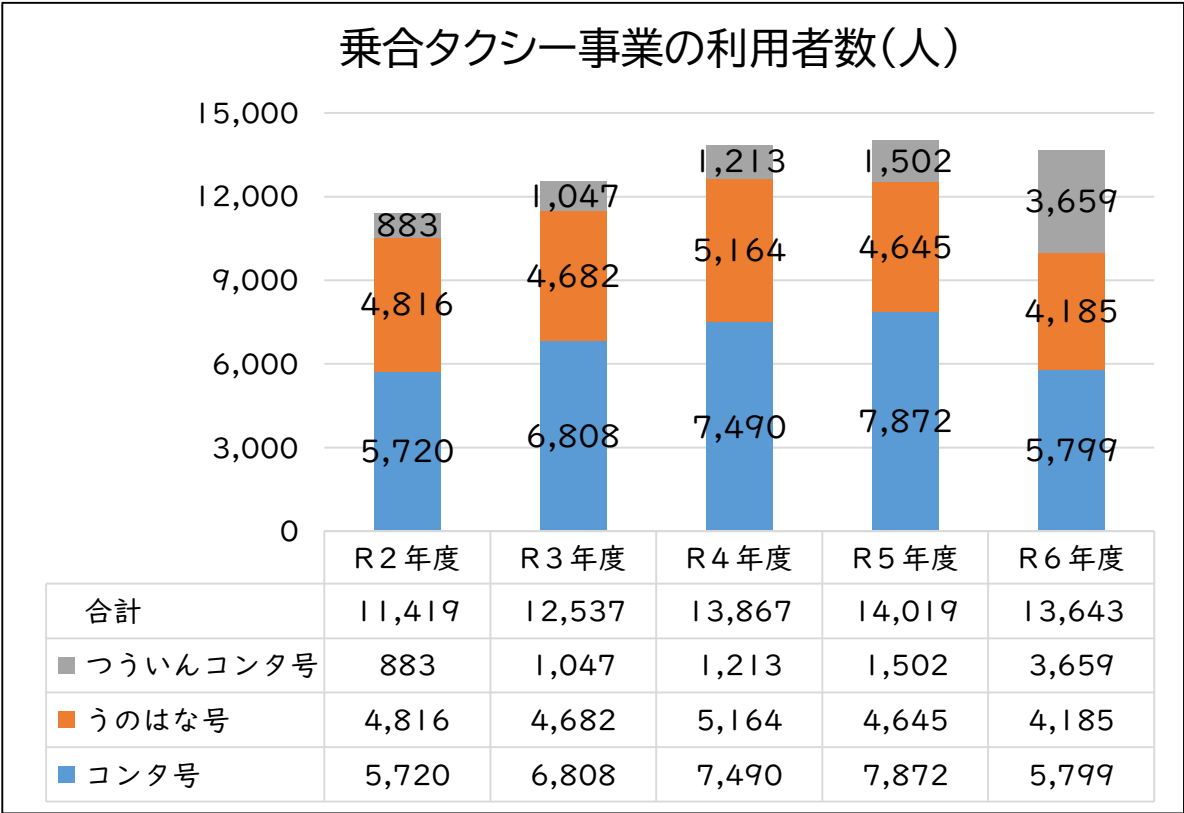


※事業期間は10月～翌年9月



※宇都宮市管轄のバス路線 ※事業期間は令和5年4月～令和6年3月

3 乗合タクシー事業の実績①



令和6年度分について、AIシステムを導入したため、令和7年2月以降の集計方法は以下のとおり。

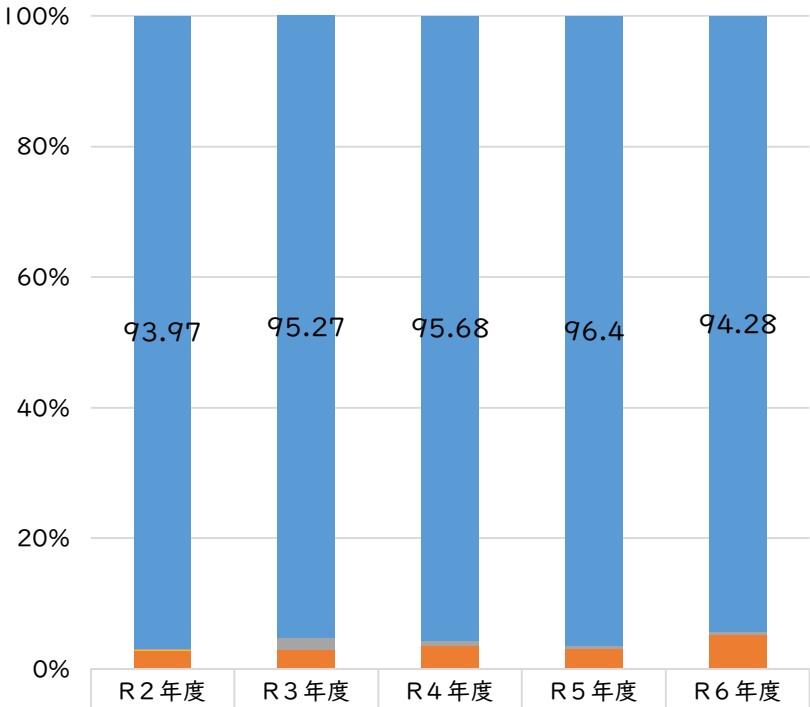
- コンタ号 → 1号車
- つういんコンタ号 → 2号車
- うのはな号 → 3号車

○ AIシステムの導入直後は利用者が減り、結果として前年度比微減。

○ 氏家地区の利用者は減少の反面、喜連川地区の利用者は増加。

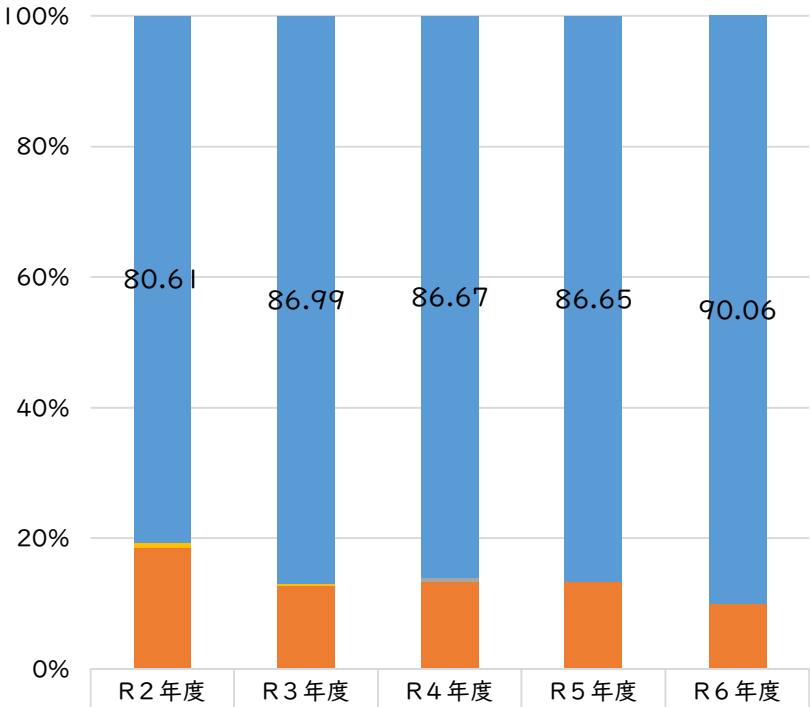
3 乗合タクシー事業の実績②

コンタ号(1号車)の利用者の
年齢区分ごとの割合



■ ① 65歳以上	93.97	95.27	95.68	96.4	94.28
■ ② 小学生	0.25	1.8	0.82	0.53	0.61
■ ③ 未就学児	0.02	0.01	0	0.03	0
■ ④ ①～③以外	2.76	2.92	3.5	3.02	5.11

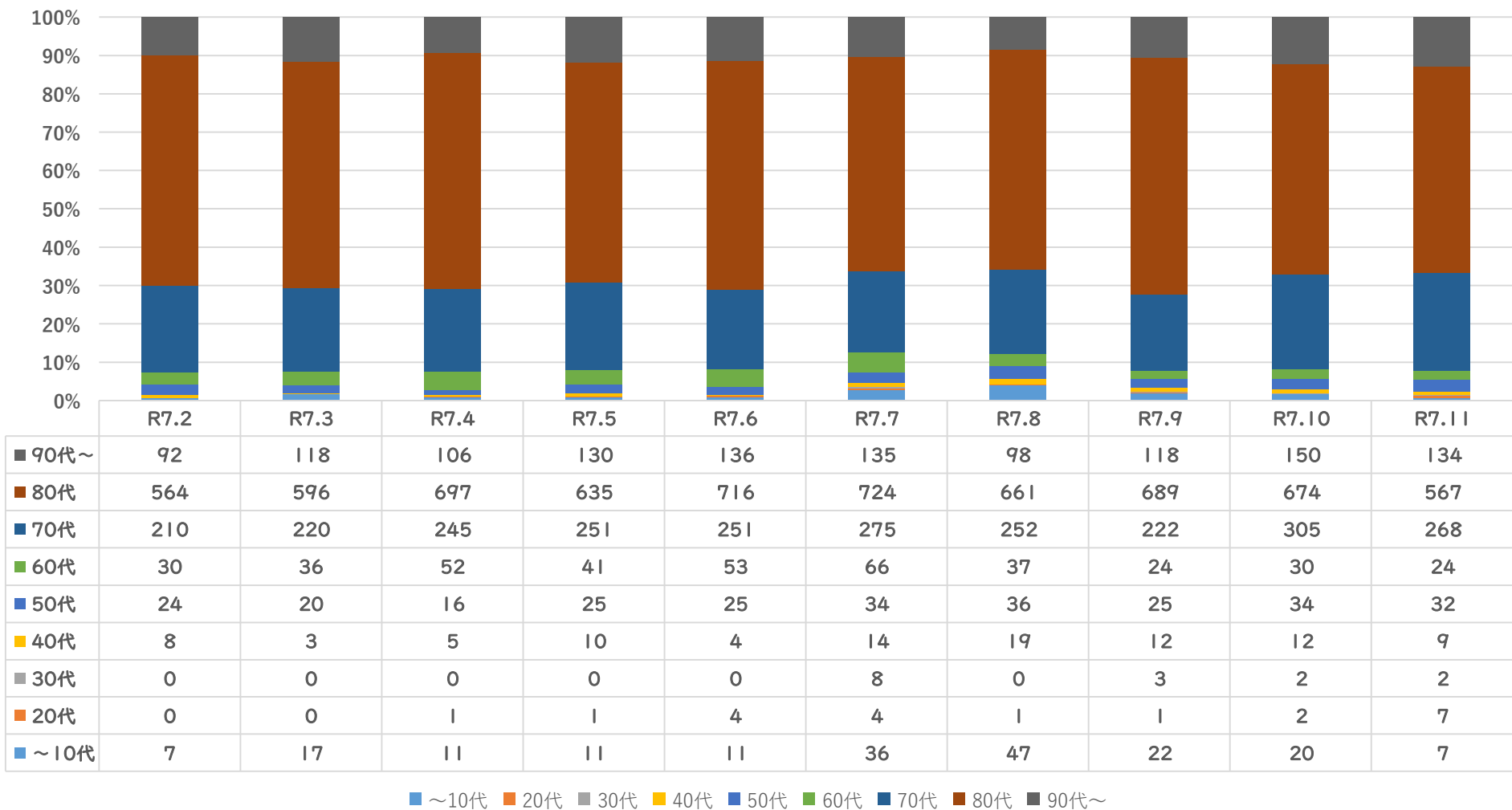
うのはな号(3号車)の利用者の
年齢区分ごとの割合



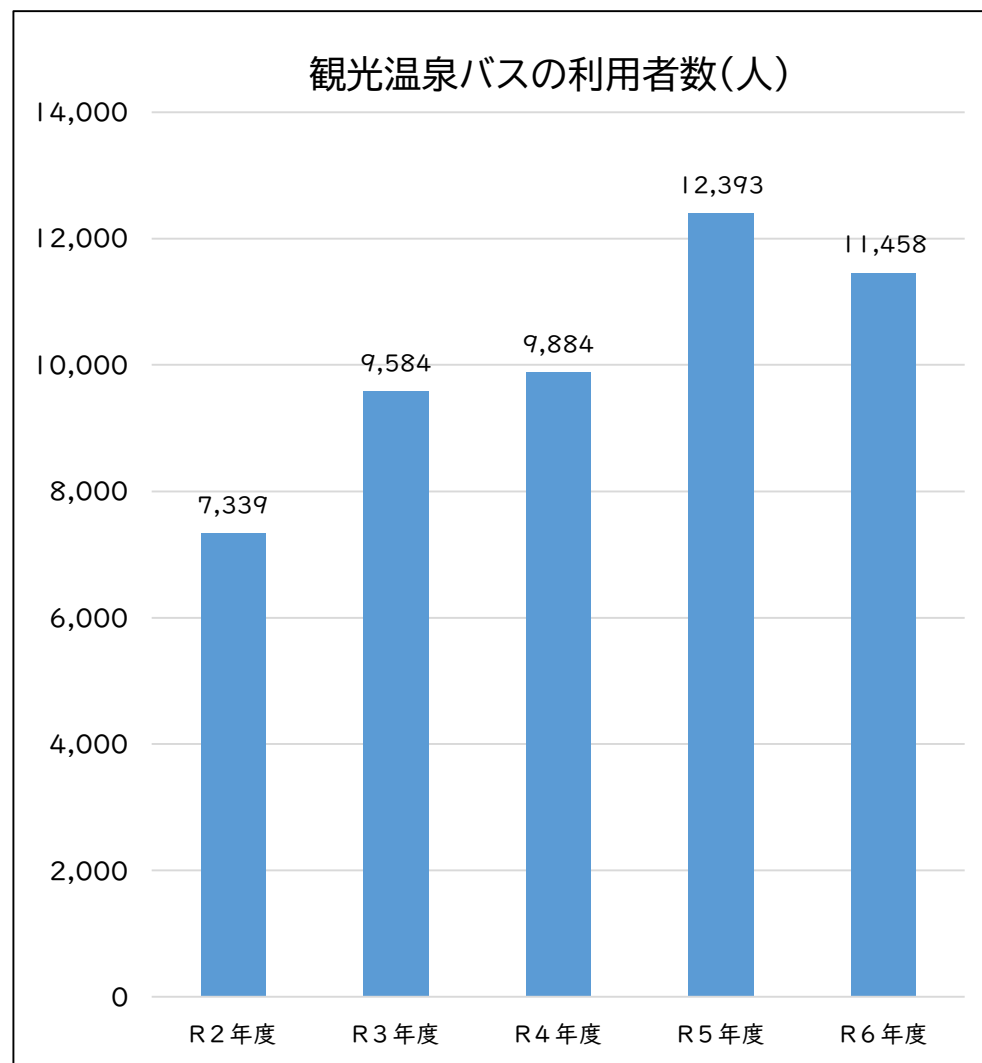
■ ① 65歳以上	80.61	86.99	86.67	86.65	90.06
■ ② 小学生	0	0	0.63	0	0
■ ③ 未就学児	0.83	0.22	0	0	0.03
■ ④ ①～③以外	18.56	12.79	13.47	13.35	9.91

3 乗合タクシー事業の実績③

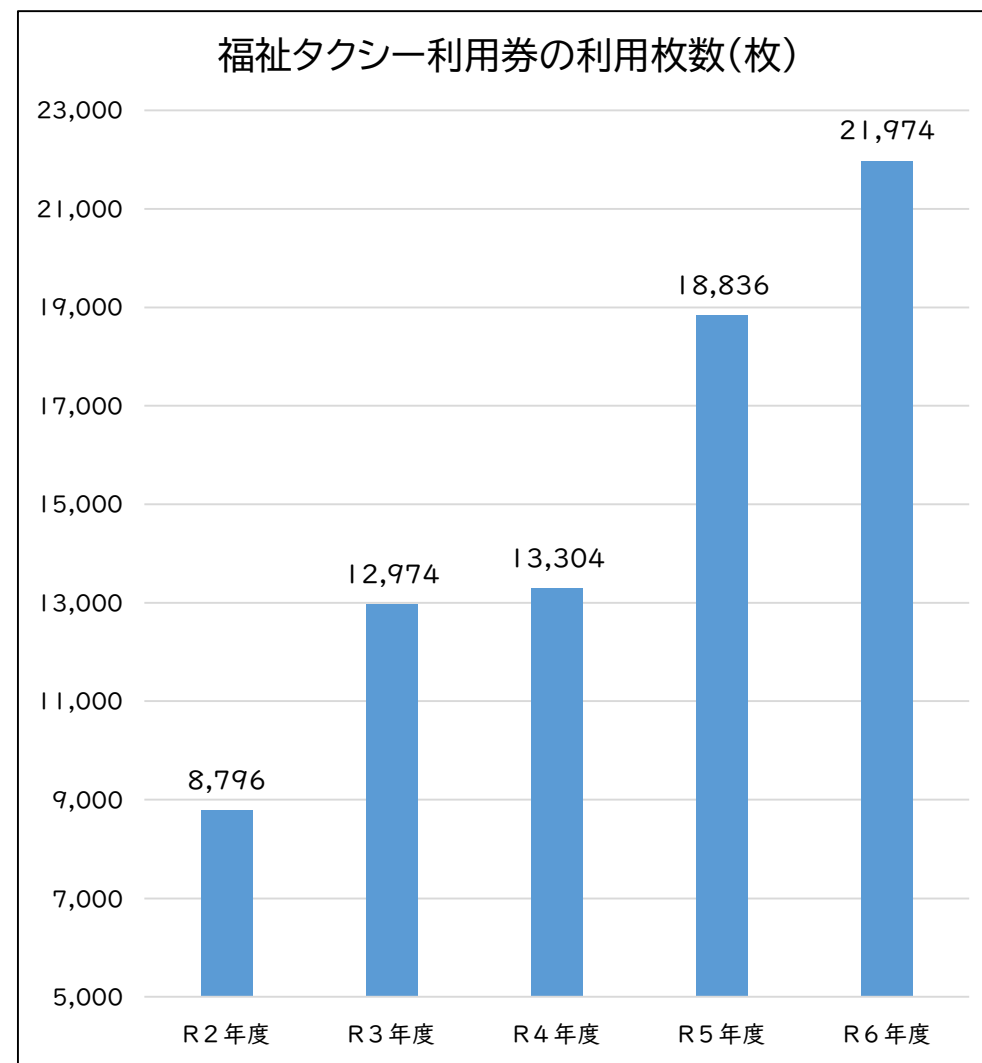
〈参考〉AI導入後の利用者割合（全体）



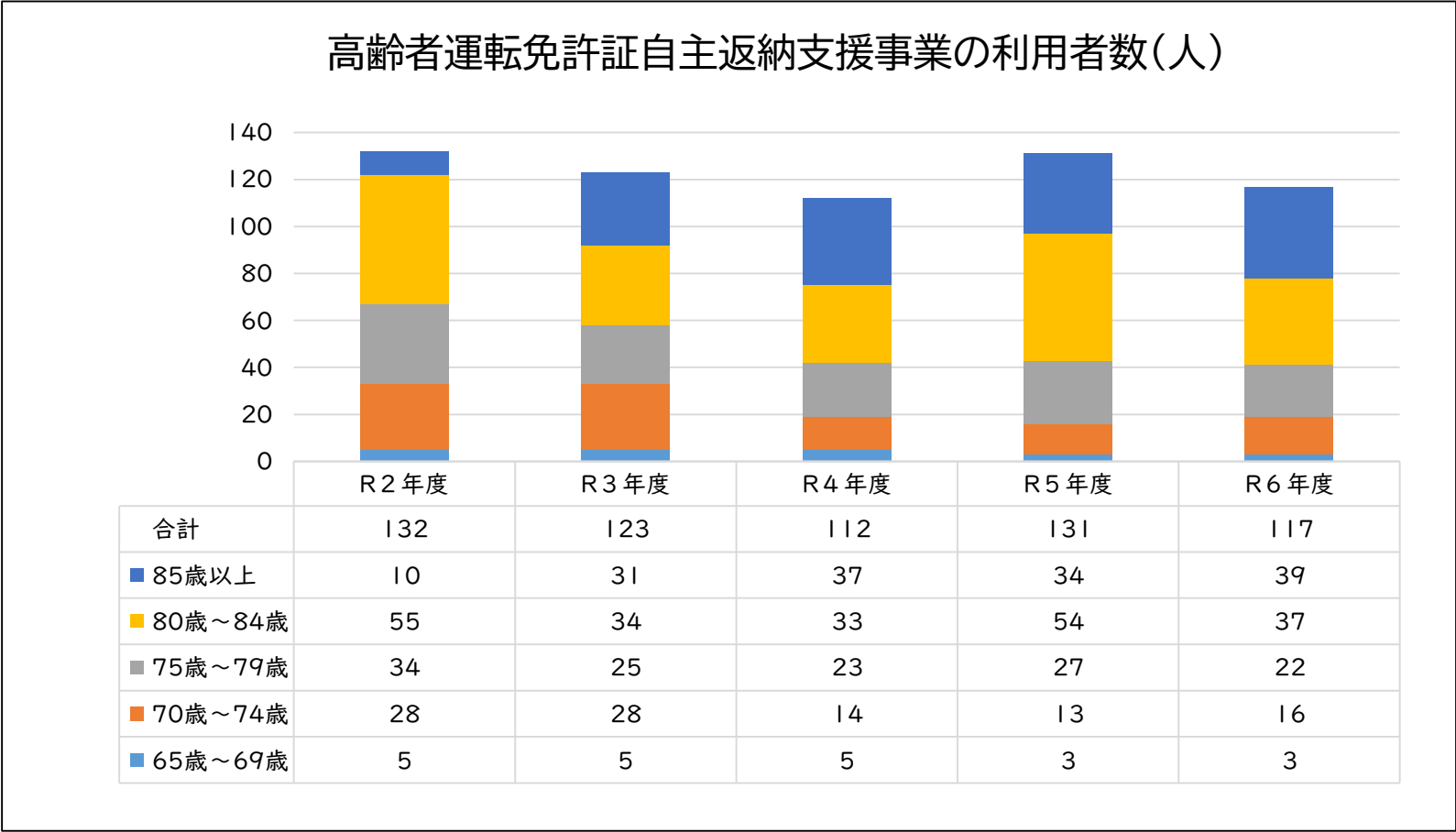
4 観光温泉バスの実績



5 福祉タクシー事業の実績

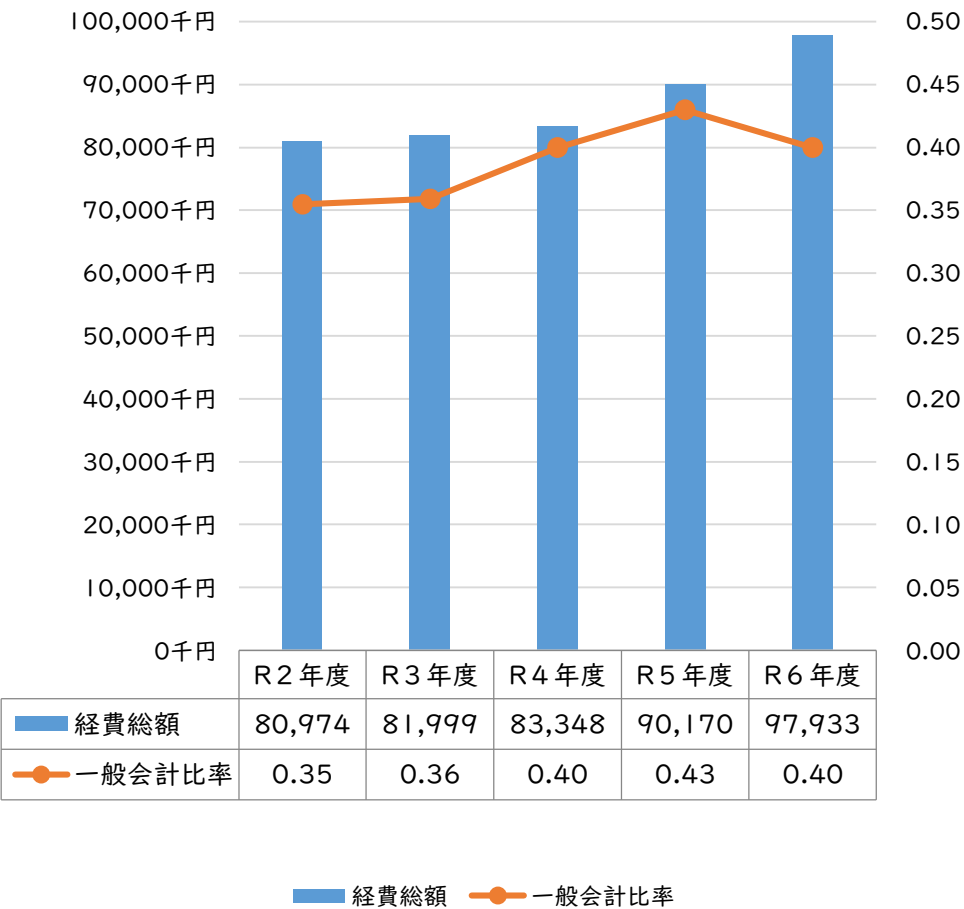


6 高齢者運転免許証自主返納支援事業の実績



7 公共交通に係る経費の総額

公共交通に対する市の財政負担
(千円・%)



公共交通に係る経費の区分の割合(%)

